

宮城野会 会員数 189 名 (6/1 現在)

放送大学と宮城野会の一人ひとりをつなぎます

放送大学 同窓会

宮城野会会報

宮城学習センターの日々

48号

発行日 : 2024 (令和 6) 年 6 月

発 行 : 放送大学同窓会

「宮城野会」

放送大学宮城学習センター内

〒980-8577

仙台市青葉区片平2-1-1

TEL : 022-224-0651

Fax : 022-224-0585

E-mail miyagi-sc@ouj.ac.jp



入学者の集いの日

学位記伝達式の日



同窓会「宮城野会」総会の日

CONTENTS

2～5 宮城野会 とびくす

6～8 招待席 「日常の時間の中で」

客員教授 佐藤 伸宏

9～10 交流ひろば

11 宮城学習センターからのお知らせ

12 同窓会宮城野会からの お知らせ

宮城野会の
活動を紹介
するページ
です

宮城野会

令和6年度 放送大学同窓会「宮城野会」総会

今年度はコロナ禍が明け、4月27日（土）10:30から、放送大学宮城学習センター講義室（1）において、久しぶりに対面での総会を行うことができました。

出席者21名、委任状提出者116名、合計137名で総会は成立しました。

穂山巖氏が議長に選出され、審議の結果、報告1号・2号議案、協議第1号から第5号のすべての議案が承認されました。



令和6年度 同窓会役員

役 職 名	氏 名
会 長	佐々木 美枝子
副会長	齋 藤 けさよ 竹 内 久 子
会 計	佐々木 美枝子 佐々木 賢 一
事務局長	佐々木 幸 江
理 事	二 郷 成 子 佐 藤 賢 一
監 事	谷 津 美智子
サポーター	鶴殿美香 小野寺美枝子 大黒福太郎 大場信子 菊田容次（会のお手伝いをしてくれる方です）

総会終了後の茶話会 ～会員相互の交流を深めました。～



参加した皆さんで軽食を頂きながら、近況報告等を話し合いました。

退職後の日々の暮らしの様子や去年行った会員研修「ひすとりあ」見学を通して10数年来の疑問が解けたこと、何回か卒業をしたがまだ大学生をやっていること、麻雀学校に通っていることや太極拳をやっていること、毎朝草花の世話をしていること、コロナ禍で自宅受験となり卒業できたのかなと思うこと、郵送でのレポート提出は15円切手を貼

ればいいのにいつも速達料金を払っていたことなど、同窓生ならではのお話に皆さんうなずきながら聞き入っていました。佐々木会長からは同窓会設立に至る経緯が皆さんに伝えられました。

とびっくす



会員みなさんのお声 ー返信ハガキよりー

近況報告等

- ◆ この季節が来ると、放送大学で学び出した新鮮な気持ちを思い出します。役員の皆様、いつもお世話になり、感謝しております。
- ◆ ボケ防止のため、細々と受講を続けております。いつもお世話様です。
- ◆ 現在、寝た状態。医療費節約より、まず通院ですよ。皆様、お元気ですか。2年後の80歳に向かって頑張っていました。腰、脚の症状が良くないので、スポーツクリニックで診療を受けています。私の住んでいる地区の公共交通機関は、日中は1時間に1本です。
- ◆ 役員の皆様には、日々お世話役を務めて下さり誠に有難うございます。在籍長い校生ですが、同窓会員であることをうれしく思っております。一層のご発展を祈念しております。同窓会の会員の皆様の更なるご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
- ◆ 学部の選科生として学んでいます。
- ◆ 元気です。時々宮城野会会報を読んでいます。
- ◆ 毎日が精一杯という年齢相応の生活です。放送大学で学んでいると、地域の福祉に少しでも役立てればと思っております。盛会をご祈念しております。
- ◆ 今年から入会しました。よろしくお願いします。仕事のため欠席します。
- ◆ 2度目の卒業を機に入会しました。なにとぞよろしくお願いします。
- ◆ 同窓会の役員の皆様、大変お疲れさまです。今年度より同窓会に入会することになりました。よろしくお願いします。
- ◆ 東北大学の多元研（片平キャンパス）で研究員として働きながら学位取得を目指しています。
- ◆ 放送大学で臨床心理学プログラムを学び、千葉本部で実習も受けました。そのお陰で公認心理士の資格を得て、子どもの心理支援をしており、今回参加できません。ごめんなさい。
- ◆ いつもお世話になりありがとうございます。コロナのさ中、放送大学の学生として、レポートと試験を何とかこなし続けた事で、生活のリズムを維持していました。また、宮城野会会報からたくさんの元気を頂きました。美しい四季に彩られた赤いレンガの学習センターの写真と皆様の学びの真摯な姿…。深く感謝しております。今後共、宜しくお願い致します。

励まし・感謝の声等

- ◆ 放送大学同窓会宮城野会の運営をされております皆様に感謝しております。
- ◆ いつもお世話になり、ありがとうございます。役員の方々、お世話くださっている皆様にご苦勞をおかけいたしております、心より感謝申し上げます。（同様内容、他に12通）
- ◆ 今春の卒業式にはお世話になり、ありがとうございました。
- ◆ 役員みなさん、お世話になっております。事情があつて総会には参加できませんが、会報から当日の様子などを読ませていただきます。いつもありがとうございます。
- ◆ 同窓会役員の方々の日ごろのご尽力、また、人と人をつなぐ役割、本当にありがとうございます。

ます。仕事の都合上、出席できず、委任状で失礼致します。

- ◆ 役員の皆様、業務ご苦労様です。高齢の身のため欠席させていただきます。会の進展を お祈りいたします。
- ◆ コロナ緩和後、より良い活動ができますように。仕事の都合で欠席です。(同様内容、他に 10 通)
- ◆ 役員の皆様、出席された皆様、ご苦労様でございます。久しぶりに一堂に会しての総会に出席できず、残念です。どうか盛会でありますようお願いしています。
- ◆ 総会おめでとうございます。久しぶりに「参加を…」と考えたのですが、予定が入っていて残念です。ご盛会をお祈り致します。(同様内容、他に 3 通)

学位記伝達式 ～終了後卒業・修了祝賀会を実施～

3月24日(日)、宮城学習センターで学位記伝達式が行われました。卒業・修了生の皆さんに佐々木美枝子会長がお祝いの言葉を述べました。

受付となった学生控室では、同窓会「宮城野会」への入会受付とバッジの販売を行うとともに、「宮城野会」の活動の様子をパネル展示で紹介しました。



入会案内とバッジ販売



活動パネル展示



学位記授与式での会長祝辞

式終了後、講義室(1)を会場に高橋満所長、藤王勉事務長をご来賓にお迎えし祝賀会を実施しました。卒業・修了された皆さんと食事を共にしながら、出席した皆さんからこの日を迎えるまでの思いについて話していただきました。

「1995年に入学し、卒業まで25年もかかってしまったこと」「会社を辞めた後の40年ぶりの学習は大変だったが、卒業できる喜びを感じていること」「あなたは何回目の卒業?と聞かれ、たまげてしまったこと」「入学した時は子育て中で放送を聴いて勉強をしていることが嬉しかったこと、分かることが楽しかったこと」「所長は、放送大学には学びたい人しかいないと言ったが、その通りであると思うこと」など話が尽きませんでした。

佐々木美枝子会長は、お祝いにお箏の演奏をプレゼントしました。また、ゲームを行い参加した皆さんと交流をするなど、楽しく充実した一時でした。



祝賀会



お箏の演奏



ゲームでの交流

入学者の集い ～終了後は学習相談を実施～

4月7日（日）東北大学金属材料研究所2号館 1階講堂で「入学者の集い」が行われました。コロナ禍が明け、会場いっぱいに入学者が集まり、これまでの学生生活が戻ってきたことを実感できる集いとなりました。「学ぶことの意味は、学ぶことを通して自分らしさを見出すこと」等の学長メッセージがビデオを通して学生に伝えられました。

「宮城野会」では、佐々木美枝子会長が集いに列席しお祝いのあいさつを行うとともにバッチの販売、活動パネルの展示、学習相談を行いました。スマートフォンやPCを活用しての受講の仕方やこれからの単位習得の仕方等例年になく多くの学生さんからの学習相談がありました。



学長メッセージ



佐々木会長あいさつ



学習相談と活動パネル展示

修士論文発表会 ～終了後は茶話会を実施～

修士論文発表会を2月4日（日）に実施しました。放送大学大学院文化科学研究科 人文プログラムを2020年に修了された大黒福太郎さんが、「歌枕『しほがまの浦』の考察～広義の意から名所歌枕へ」について発表しました。参加者は15名でした。今回は発表者一人ということもあって、研究内容について深く掘り下げた内容まで発表してもらうことができたと思います。終了後は、茶話会を行い、研究の苦労話などを伺いました。

参加した方々の感想



研究発表



茶話会

- ・参加人数は少なかったが、おだやかに発表者と参加者のあいだで意見の交換ができたと思います。発表者も研究に対する感想を話されて良かったと思います。発表の後にも意見、質問が出たことは良かったと思います。所長の感想（講評）も良かったと思います。
- ・多少、理解できてうれしかったです。
- ・発表者は一人だったが、その分研究内容をじっくり伺うことができて良かったです。修士の研究というのは、専門的なことを深く掘り下げるものだということがよく分かりました。
- ・「しほがまの浦」に着目し、研究されたことに感心しました。深く考察することに興味を持ちました。そのような視点で歌を深く読んでみたいと思いました。
- ・「しほがまの浦」についての読みの深さに驚きました。資料集の多さ、調査にかなり時間をかけ深掘りしたことにより、理解することができました。
- ・深く掘り下げた論拠をもとに発表され感激しました。
- ・もっと度々、このような研究発表会を企画してください。事務局の皆様、大変でしょうが。（ご無理な要望です。ご容赦ください。）

招待席

日常の時間の中で

佐藤 伸宏

例は威勢よき黒ぬり車の、それ門に音が止まった娘ではないかと両親に出迎はれつる物を、
今宵は辻より飛のりの車さへ帰して悄然と格子戸の外に立てば、家内には父親が相かはらず
の高声、いはゞ私も福人の一人、いづれも柔順しい子供を持つて育てるに手は懸らず人には
褒められる、分外の欲さへ渴かねば此上に望みもなし、やれやれ有難い事と物がたられる、
あの相手は定めし母親、

明治 28 (1895) 年に発表された樋口一葉の小説「十三夜」の冒頭部である。原田勇の妻となっている主人公お関が、「十三夜」の夜に実家の斎藤家に赴いた場面であるが、発表されてから既に百年以上も経過しているこの文語体小説を読み解くことは容易ではない。そうした小説の冒頭の一節が語ることを明らかにするために、我々読者はその一字一句を辿るようにして幾度も読み返し、また細部に折り込まれている様々の事象の内実を掘り起こしてゆくことになる。例えばここに二つの「車」、即ち人力車が登場する。「例」のお関が実家の門前まで乗り付ける「黒ぬりの車」、それは黒い漆で塗り上げて家紋を印した自家用の高級人力車である。車の引き手は雇い先専属のお抱え車夫であり、その家の者が出掛ける際には所用先まで「威勢よ」く送り届ける。言うまでもなくそれは、裕福な階層、上流階級の人々が所有する「車」に他ならない。従って「例は威勢よき黒ぬり車の」という冒頭の一句をとおして、お関の婚家原田家が明治の上流階級に属する家柄であることが自ずから明らかとなる。しかし「今宵」のお関は「例」と異なる。その夜、お関が乗り込んだのは「飛のりの車」、所謂流しの人力車であり、しかも実家の手前の「辻」で車を乗り捨てて、「悄然と格子戸の外」に立つ。異例の実家訪問である。この一節は、その実家斎藤家が「室内」で父親が母親を前にして話す声が「格子戸の外」に筒抜けに聞こえてくる程に狭い敷地にたつ小さな家であることを言外に語り出している。同時に、原田家と斎藤家との極めて大きな家柄の隔たり、落差もそこには示されている。そしてお関は格子戸の前に立ち竦んだまま、我が子のことを誇らしげに語る父親の言葉にじっと耳を傾けているのである。——こうして行きつ戻りつを重ねながら小説を織りなす言葉を辿る中で、冒頭の短い一節の背後に折り込まれている複数の意味が少しずつ我々の前に開かれてくる。固い結び目を丁寧に解きほぐすようにして小説本文を読み解いてゆく、そうした営みの裡に、文学作品を読むことの愉悦があると言ってよいだろう。

◆ 「招待席」は、客員の先生に原稿をお寄せいただいています

ところでそのように文学を読む行為に没入している時、我々の内部に流れているのはいかなる時間であるのか。もちろん机上の時計は休みなく時を刻み、その秒針の動きは刻々と経過する時間を伝えている。我々の日常はそうした時間の中で営まれているのであるが、小説の世界に身を委ねている中で我々の意識が触れているのは、果たしてそうした日常のそれと同じ時間なのだろうか。

日常を生きる我々を取り巻く時間は束の間も止まることがない。それは常に一方向的に流れ去り流失する、行きて帰らぬ時間であり、私たちの生はそうした時間に殆ど就縛されたものとしてある。しかしながら文学作品に読み耽るさなかにある時間の感触は、それとは本質的に異なるものと言うべきだろう。むしろ日常的な時間から抜け出た、言わば流れない時間として、それは静かな充足の裡に息づいている。即ちそこには別種の時間が開かれているのである。言い換えれば文学はそうしたもう一つの時間への通路となり得る。

よくみれば^{なづな}薺花咲く^{かき}垣ねかな
^{うづみび}埋火や^{わが}我かくれ^が家も雪の中

芭蕉
蕪村

芭蕉の句は、薺が花開いている姿にふと気付き、じっと静かに視線を注いでいる様を描いている。垣根の下、目立たぬところにひっそりと咲く薺、――それは眼を凝らさなければ気付かぬような、ひそやかに咲く小さな白い花に他ならない。そんな素朴で小さな花を思いがけず見出した驚きと感銘の中で、その花にしばし眼を奪われているのである。中七下五の二句に連なる〈ア〉の母音は、春の明るい陽光を受けて花開く薺を見出した喜びの思いを響かせていよう。そうした眼差しをとおして、路傍に花開く素朴で目立たぬ小さな花にも確かに宿る春という季節、その明るさに包まれた茫漠とした広がりも又ここに映し出されている。一方、蕪村の一句は「や」の切れ字によって「埋火」に焦点を据える。灰の中に埋もれた炭火のほのかな温もり。その「埋火」にした火鉢を抱え込むようにして「我」は「かくれ家」に籠もっているのである。「我かくれ家」という言葉は独居隠栖の孤独な籠もり居の姿を思わせるが、しかしここにあるのは独り身の悲しみではなかろう。むしろそこにはこの「我」をそっと包み込む温もりの空間の居心地の良さ、安息こそが感じられる。この一句全体のもつ或る種の弾みのあるリズムがそうした安らかさに包まれた「かくれ家」の感触を支える。そして降り続く雪にすっぽりと包まれている「かくれ家」、その

招待席

人目を包む家の中で籠もり居する「我」、更に「我」が身を寄せる灰に埋もれた炭火、——それらのイメージは相互に重なり合いながら、内側へ内側へと向かう動きを伝えている。それによってこの「我」が心の内側の夢想の世界に入り込んでゆく姿も又ここに浮かび上がってくるのである。

これらの俳句が呈示している、ふと見出したひっそりと花開く小さな花を見つめ続ける時間、また雪に埋もれた「我かくれ家」の小さな空間の中に開かれる夢想の時、——それらは日常の時の流れの中で見れば、ごく束の間のことに過ぎないのかも知れない。しかし刻々と経過し流失する時間とは別途の、言わばそうした流れとは無縁に、溜まり水のように静かに穏やかにたゆたう時間がそこにはある。先に引用した一葉小説を読む体験も同様であろう。多くの意味が折り込まれたその文章は速やかに直線的に読み流すことを許さない。それ故読者の読む行為は、そこで幾度も立ち止まり、読み直し、一つ一つの言葉を辿り返すことへと促される。換言すればその文体には直進する動きとは異質の、滞留する時間が孕み込まれている。私たちがそれを読む行為とは、取りも直さずそうした表現が内包する時間に身を委ねる体験となるのである。そのような時間は、時計が刻む時間を自明の前提として速さや効率に価値を見出す現在の状況においては見失われがちであるのかも知れない。しかし私たちはそうした日常的な時間とは異なる、もう一つの時間を生きることが出来る、それも又確かなことなのである。そして我々の生のかげがえのなさと豊かさの所在はそこにこそ示されているのではあるまいか。

〈プロフィール〉

佐藤伸宏（さとう のぶひろ）

1954 年生まれ。

東北大学大学院文学研究科博士課程修了。

東北大学名誉教授。

専門は、日本近代文学に関する比較文学的研究。



17 年前の忘れ物

小嶋 寛己

「放送大学には、学びたいという思いを持った方しか入学していない」

これは、令和 6 年 3 月に行われた同窓会主催の卒業・修了祝賀会において、学習センター所長が祝辞の中で用いられた表現です。

所長のその言葉を聞いて、私は自分が高校生だった 17 年前のことを思い出していました。

私は家庭の事情により、小学生の頃から高校を卒業するまで児童養護施設に入所していました。

令和 6 年現在では、「高等教育の就学支援新制度」等もあり、社会的養護の下に置かれた子どもたちにも少しずつ進学チャンスが与えられつつありますが、平成中期にはそのようなものは存在せず、今よりも厳しい状況であったことを覚えています。

児童養護施設に入所していた私も、大学に進学して興味のある分野を学びたいという希望を抱いていましたが、やはりそれは困難であり、高校を卒業した平成 19 年の春に就職することになりました。かつての私は、学びたくても学べなかったのです。

そんな私の人生の転機は平成 30 年に訪れます。

高校卒業後から勤めていた会社を退職し、新たな仕事に就くことになったのです。

新たに就いた仕事は市民のために働くやりがいのあるものでしたが、その反面、仕事をしていく上でわからないことも多く、知識不足を痛感する日々が続きます。

働きながら、仕事に必要な知識を身に付けられる方法はないかと検討した時に、「通信制の大学で学ぶ」という選択肢があることに気付き、同時に、進学を断念せざるを得なかったあの頃の思い出がよみがえってきました。

これを好機と考えて、仕事にも慣れてきた令和 2 年に通信制の短期大学に入学し、短大卒業後の令和 4 年に放送大学に編入学しました。

放送大学には入学試験もなく、年齢や性別を問わず皆が前向きな姿勢で学んでおり、「学びたいという思いを持つことが入学資格」なのだと実感しました。

そして令和 6 年の春、私は放送大学を卒業することができました。

35 歳にして初めての大学卒業、17 年前の忘れ物をやっと見つけ出した気分です。

多様な学生を幅広く受け入れてくれる放送大学には感謝の気持ちでいっぱいです。
本当にありがとうございました。

お陰様で卒業できました

齋藤 安弘

私はコロナ禍の2021年4月に、「自然と環境」コースへ第2年次編入にて入学いたしました。通信制ということで、キャンパスは無いようなものだろうと覚悟はしていましたが、宮城学習センターを初めて拝見した時は、失礼ながら「えっ?」と思いました。小学校の校舎ほどの大きさですし、「戦時中の空襲で焼けなかったんだなあ〜」と思えるくらいに、時代を感じさせる建物でした。しかし度々、面接授業でお世話になると、愛着といいますか、貴重な文化財である建物で学んでいることに、ありがたささえ感じたものです。

ところで、入学しても簡単には卒業できない当大学ですので、入学希望者の方々にOBから「自分はこのように学習した」とアドバイスする機会があってもよいかな・・・と思います。仕事や家庭を持ちながら学生として学ぶには、効率の良いやりかたがあります。今後、より多くの学生に無事に卒業して戴くようお手伝いできる機会があれば・・・と、思っています。

最後に私も2度目の編入学ということで、「人間と文化」コースで再び学ばせて戴くことになりました。教職員の皆様には、またお世話になりますので、宜しくお願い致します。

時の流れ

SM

高齢者の学習は記憶力の低下など老化現象のためか時間がかかります。私の場合、教科書を読むとき視力の衰えで常に拡大鏡が必要なことや数々のカタカナ語の意味もいちいち辞書で引くのですから一苦勞です。当然放送授業も一度視聴したくらいでは頭に入りません。それでもインターネット配信を繰り返し視聴することでクリア出来ました。

私が放送大学で学ぶきっかけになったのは30年以上前になりますが英語をマスターしたくて科目履修生になったことです。当時の学習環境は現在と違いラジオの放送を聞き逃すと学習センターからカセットテープを借りなければなりませんでした。

今回時を経て入学し学習環境の変化をつくづく感じています。インターネットの普及でいつでもどこでも何度でも放送授業を視聴できるのでから本当に便利になったものです。前回中断してしまった英語も充実して取り組むことができ少し道筋が見えました。「道半ばどころか未だ山麓」ではありますがいつか英語をマスターしたいと思います。

卒業で得たもの

遊佐 徳雄

私は今回、「自然と環境コース」を卒業しました。初めて入学したのは1992年で、勤務しながらの放送大学の学習でした。1回目の卒業では非常に苦勞した事が思い出されます。なにしろ聞いたことがない言葉、分からない漢字が多く出てくるのでその都度辞典で調べるので中々前に進まず、結局最終年限の10年目での卒業でした。入学当時は機材の操作や事務手続き等、分からない事が多く、事務職員の方々には多大な迷惑をかけてしまい、申し訳ございませんでした。

1回目の卒業後は、1年間ゆっくり休みましたが、翌年に再入学しました。その後は学習しながらサークルにも参加し、皆さんと楽しく会話し、情報交換をしました。成績優秀で卒業できたとはとても言えませんし、忘れてしまったことも多いが、それでも何かしら学習した分、知識が得られたと思っています。「初めての気象学」では壮大な宇宙でのビッグバンによって地球が誕生したこと、気象分野では地球の降雨、放射熱、海洋の働きなど、学習しながらとても信じがたく、驚いたものです。印象に残っている教科では、青山昌文先生の「西洋芸術の歴史と理論」です。外国の現地取材が多く、口角泡を飛ばして説明される青山先生の熱意が伝わってきます。特にヨーロッパの多くの画家や絵画作品は写真を通して多くを知ることができました。丁度この時期にフランスの世界遺産巡りのツアーに行く機会に恵まれ、ルーブル、オルセー、オランジュリーの各美術館で作品を鑑賞できたことは深く作品を知る機会となりました。

折に触れ、ニュースや記事で学習した事項が出ると懐かしく思い出され、教材で調べることもあります。

放送大学 宮城学習センターからの お知らせ

【 2024（令和6）年度 10月入学生募集中！ 】

一出願受付期間一

■教養学部 ■修士選科生・修士科目生

第1回募集期間：2024年8月31日（土）まで

第2回募集期間：2024年9月1日（日）～9月10日（火）

募集要項は、放送大学ウェブページよりご請求または、
宮城学習センターにお越しください。

↓↓ 資料請求はこちら ↓↓



<https://www.ouj.ac.jp/seikyu/>

一大学案内・入学相談会一

日時：2024年7月13日（土）、7月27日（土）、8月3日（土）

①10：00～ ②11：00～ ③14：00～ ④15：00～

事前予約制。ご希望の時間①～④をお知らせください。

会場・申込先：宮城学習センター TEL022-224-0651

過去に修得した単位を引き継ぐことができますので、
再入学してみませんか。

入学相談会申込



<https://forms.gle/dVRRBVJWEUrcFxNR8>

2024年度 公開講演会を開催します！

『 海洋温暖化と東北の魚たち 』

片山 知史 氏

東北大学大学院農学研究科教授

放送大学宮城学習センター客員教授

会場：東北大学片平さくらホール（2階）

問合せ、申込み先：宮城学習センターまで

022-224-0651 miyagi-sc@ouj.ac.jp



下記の公開講演会も予定しています。詳細が決まりましたら宮城学習センターホームページに掲載します。

2024/11/2(土)

川内 淳史 氏

東北大学災害科学国際研究所准教授

放送大学宮城学習センター客員准教授

専門：歴史学

会場：大河原町駅前コミュニティセンター（2階）

2025/2/8(土)

栗原 由紀子 氏

尚絅学院大学総合人間科学系社会部門教授

放送大学宮城学習センター客員教授

専門：民法・消費者法

会場：東北大学片平さくらホール（2階）

同窓会 宮城野会からの お知らせ

だれでも参加できる文化祭・交流会のお知らせ

「宮城野会」では「文化祭・交流会」の開催を企画しました。
皆さん、共に楽しい一日を過ごしましょう。



開催日時 9月15日(日曜日)

10:00～14:30

場 所 宮城学習センター

1 交流会 10:00～11:30

- ① 高橋所長の講話
- ② 趣味(音楽などの演奏会) どなたでも大歓迎
- ③ 楽しいゲーム など

2 展示会 10:00～14:30(片付け 15:00 終了)

展示コーナーを作ります。出品してください。

- ① 各ゼミやサークル、個人の活動風景等
- ② 趣味の手作り作品(絵画・手芸)などの展示品

【問合せ先・申し込み先】

交流会・展示会とも宮城学習センターの窓口・電話・Eメールでお申し込みください。

発表、展示をする方は、どのような内容かについてもお知らせください。

TEL: 022-224-0651

E-mail: miyagi-sc@ouj.ac.jp

申し込み締め切り

8月20日(火)

研究発表者募集

今年度も卒業研究・修士論文研究発表会を
令和7年2月頃に実施する予定です。

研究に取り組んだ皆さん

発表してみませんか。

発表ご希望の方は、Eメールで宮城学習センター「宮城野会」までお申し込みください。



各500円 ▶ バッジ購入希望の方は、宮城野会役員または宮城学習センター事務室を通してお申し込みください。

令和6年度 年会費納入について

同封の振込取扱票(青紙)を使い、最寄りの郵便局のATM・窓口で振込みをしてください。

*前年度までの会費未納の方には、合計金額を記載しております。振込みをしていただきますよう、よろしくお願いいたします。



- ・ ゆうちょ口座名 放送大学同窓会宮城野会
- ・ 年会費 1,500 円
- ・ 記号 02230-0 ・ 番号 47188